

消防審議会 の 開催

(総務課)

去る3月2日(金)15時から消防庁消防審議会室において、省庁再編後最初の消防審議会総会が開催されました。

総会では、会長に菅原進一委員が選任され、会長代理に矢野浩一郎委員が指名された後、消防庁各課室長から、「平成13年度消防庁予算

(案)等」をはじめ、「消防の広域再編」、「消防法の一部を改正する法律案の概要」、「今後の住宅防火対策の推進」など、当面する諸課題等について報告が行われ、活発な議論が展開されました。



会長に選任された菅原進一委員(左)と
中川浩明消防庁長官(右)



消防審議会委員

会長	菅原進一	東京大学大学院工学系研究科教授
会長代理	矢野浩一郎	救急振興財団理事長
	浅野大三郎	市町村職員中央研修所学長
	在塚礼子	埼玉大学教育学部教授
	池田春雄	東京消防庁消防総監
	上平準一	大分県消防協会会長
	加藤真代	主婦連合会副会長
	重川希志依	富士常葉大学環境防災学部助教授
	徳田正明	日本消防協会会長
	新美春之	経団連環境安全委員会安全部会長
	浜美枝	女優
	原田一郎	京都市消防局長
	吉村秀實	日本放送協会解説委員

平成12年度消防功労者消防庁長官表彰式

(総務課)

平成12年度消防功労者消防庁長官表彰式が、3月8日(木)午前10時からニッショーホール(港区虎ノ門)において、御法川英文衆議院総務委員長、溝手顕正参議院総務委員長、徳田正明日本消防協会会長、池田春雄全国消防長会会長ほか多数の来賓の御臨席のもと盛大に挙行されました。

この表彰式は、3月7日の「消防記念日」にちなみ、毎年この時期に実施されているものです。消防庁長官表彰は、

1 功労章

防災思想の普及、消防施設の整備、その他災害の防ぎよに関する対策、防教育の実施についてその成績特に優秀な者

2 永年勤続功労章

永年勤続し、その成績が優秀で他の模範と認められる者



挨拶をする片山虎之助総務大臣



祝辞を述べる御法川英文衆議院総務委員長

3 表彰旗

防災思想の普及、消防施設の整備、その他災害の防ぎよに関する対策実施について、その成績特に優秀で、かつ他の模範となると認められる消防機関

4 竿頭綬

その成績が、表彰旗を授与する消防機関に準ずる消防機関

5 表彰状

多年、都道府県消防防災関係事務従事職員として勤務し、その成績が優秀で他の模範と認められる者が対象であり、今回の受章者数は下記のとおりです。

功 労 章	177名
永年勤続功労章	2,348名
表 彰 旗	50機関
竿 頭 綬	37機関
表 彰 状	1名
合 計	2,613名機関



祝辞を述べる溝手顕正参議院総務委員長

表彰式では、片山虎之助総務大臣の挨拶、中川浩明消防庁長官の式辞の後、各表彰ごとの代表者に章記等が授与され、来賓の方々か

ら御祝辞をいただき、最後に受賞者を代表し、岡山県真庭消防本部松本隆雄消防監が謝辞を述べ、終了いたしました。



表彰状を授与する中川浩明消防庁長官



受章者代表謝辞を述べる松本隆雄氏

午後からは、皇居に参内し、記念撮影及び皇居参観を行いました。

なお、代表受領者は次の方々です。

功 勞 章	徳 島 県	吉 野 町 消 防 団	団 長	瀬 尾 敏 男
永 年 勤 続 功 勞 章	鹿 児 島 県	鹿 児 島 市 消 防 団	副 団 長	坂 元 一 盛
表 彰 旗	青 森 県	脇 野 沢 村 消 防 団		
竿 頭 綬	東 京 都	千 住 消 防 団		
表 彰 状	山 口 県	消 防 防 災 課	主 幹	幸 村 和 夫



平成12年度消防関係業界功労者表彰式

(予 防 課)

消防庁では、去る3月16日(金)午後4時30分より、スクワール麹町(千代田区麹町)において平成12年度消防関係業界功労者の表彰式を挙りました。

消防関係業界功労者表彰は、消防機器等の開発普及、業界の近代化等を通じ消防行政の推進

に寄与しその功績が顕著であった者を、消防庁長官が表彰するもので、昭和43年度から実施しています。

式典では初めに中川浩明消防庁長官の「式辞」の後、受賞者ごとにそれぞれ表彰状及び記念品が授与されました。

なお、受賞者は、次のとおりです。

ホーチキ(株)相談役	馬 場 隆 義
ニッタン(株)常務取締役営業本部長	日向野 欽 司
能美防災(株)取締役海外事業部長 兼海外事業部第一営業部長	武 田 迪 夫
ヤマトプロテック(株)営業本部取締役 (株)初田製作所取締役消火機器事業部長	下 村 道 生 八 木 邦 和
深田工業(株)顧問	野 村 哲 夫
千住スプリンクラー(株)取締役工場長 (株)モリタ品質保証部部长	小 貫 弘 弘 白 戸 泰 三
富士ロビン(株)技術部担当部長	波多野 洋 明
(株)立売堀製作所相談役	樋 口 馨 行
(株)北浦製作所代表取締役社長	北 浦 信 仁
(株)消防科学研究所代表取締役社長	菊 池 勝 治
芦森工業(株)理事大阪防災営業部上席部長	嵯 峨 正 夫
テンパール工業(株)技術本部開発部長	今 本 敏 夫
(株)ダイリン代表取締役会長	加 登 起 興 志
(株)アミロン取締役社長	野 口 庄 助
日本クリーナーズ防災協会理事長	山 田 健 三 郎
加藤(株)代表取締役社長	小 澤 哲 男
住江織物(株)本社テクニカルセンター 副所長兼新機能開発グループ部長	佐 武 哲 男
(株)ユニット企画販売代表取締役	黒 田 宏



式辞を述べる中川浩明消防庁長官

平成12年度第5回防災まちづくり大賞表彰式

(防 災 課)

平成12年度第5回防災まちづくり大賞表彰式が、去る3月15日(木)午前11時30分から、東條会館(東京都千代田区)において行われました。

防災まちづくり大賞は、地方公共団体や地域のコミュニティ、事業者等が行っている防災に関する様々な取組のうち、特に優れた事例を表彰しているものです。

なお、受賞団体及び受賞事例は次のとおりです。

○総務大臣賞【2事例】

なぎさニュータウンなぎさ防災会(東京都)

「地域ぐるみの防災対策」

守口市門真市消防組合消防本部、(株)エフエム
もりぐち(大阪府)

「コミュニティ放送における緊急情報放送システム等の取組について」

○消防庁長官賞【3事例】

三菱地所株式会社(東京都)

「事業所における防災対策の先進的取組み例」

横須賀危険物安全協会、神奈川県石油商業組合横須賀支部(神奈川県)

「ガソリンスタンドに市民救命士を配置」

旧居留地連絡協議会防災委員会(兵庫県)

「事業所集団で構成する防災福祉コミュニティ」

表彰式では、中川浩明消防庁長官の式辞の後、消防庁長官、消防科学総合センター理事長から受賞団体代表者それぞれに表彰状及び目録が授与され、受賞団体を代表してなぎさニュータウンなぎさ防災会会長高原秀光氏が謝辞を述べました。最後の記念撮影には、片山虎之助総務大臣も国会から駆けつけて参加され、無事終了致しました。

○消防科学総合センター理事長賞【5事例】

八戸消防設備協会(青森県)

「老人家庭への奉仕活動」

しずくいしちよう
雫石町(岩手県)

「岩手山の火山活動に係る特別調査等の実施」及び「岩手山火山災害対策図の作成」

こおりやまし
郡山市(福島県)

「IT(情報技術)を活用した情報収集伝達訓練」

すうじんがっく
京都市崇仁学区自主防災会(京都府)

「崇仁学区自主防災会の連続放火防止対策」

ながぐん
那賀郡消防組合(和歌山県)

「小学4年生に防災博士」



表彰状を授与する中川浩明消防庁長官



片山虎之助総務大臣(前列左から7番目)との記念撮影

平成12年度消防防災機器の開発等及び 消防防災科学論文消防庁長官表彰式

(消防研究所)

消防庁では、去る3月13日(火)午後3時から総務省第1・第2会議室(東京都千代田区)において、消防防災に関する科学技術の高度化及び消防防災活動の活性化に寄与することを目的として、消防職員を含め広く一般から、消防防災

機器の開発・改良及び消防防災科学に関する論文の募集を行い、その中から厳正な審査を経て決定した優秀作品14編についての表彰を、下記のとおり行いました。

なお、受賞者は、次のとおりです。

1. 優秀賞(12編)

(1) 消防吏員等による消防防災機器の開発・改良(5編)

- ・酸素マスク固定バンドの開発・改良
浅川 精(峡北広域行政事務組合)
- ・空気のこぎり携帯器具
奥野 治男、溝江 秀晴、飯島 義明
(東京消防庁)
- ・SEE装置(セーフティ・アイ・イヤーステム)の開発
野城 省一、熱田 任夫、横山 敏夫
(東京消防庁)
- ・クイックキャッチャーの開発
林田 高明(西宮市消防団)
- ・有蓋式防火水槽凍結防止シート
松本 英俊、名和 秀雅、岩崎 豊
(東十勝消防事務組合)

(2) 消防吏員等による消防防災科学論文(3編)

- ・初期消火効力の向上策に関する研究
木村 義雄(京都市消防局)
- ・斜面災害における救助活動可能時間を予測する研究
長瀬 聡(東京消防庁)
- ・仏像等の文化財搬出・防災対策に関する研究
山本 正弘、藤田 裕喜、川上 敏宏
(京都市消防局)

(3) 一般による消防防災機器の開発・改良(4編)

- ・電動ジェットシューターの開発
太田 卓、水野 孝則、本間 毅
(芦森工業株式会社)
- ・避難器具・緩降機の着用具の改良
緩降機技術開発部(松本機工株式会社)
- ・幼稚園の浄化槽を防火貯水槽に改良
楠瀬 幸陽(一宮幼稚園)
- ・二輪牽引式の多目的消防活動二輪車の開発
浜畑 徳久(株式会社MSK)

2. 奨励賞(2編)

- ・警告サイレン付操作箱保護カバー(びっくり箱)の開発
防災グループ(株式会社トキメック)
- ・軽微火災用簡易消火器具の開発
田代 努(玉野市消防本部)



受賞者記念撮影

平成12年度日本消防協会定例表彰式

(総務課)

平成12年度日本消防協会定例表彰式が、去る2月9日(金)午後1時から日本消防会館・ニッショーホールにおいて、受賞者、国会議員、消防庁及び消防関係団体の関係者約700名の出席のもと、盛大に執り行われました。

この表彰式は、優秀な消防団及び消防団員等の功績を顕彰、表彰するもので、今年は各表彰合わせて消防団161団、婦人消防隊37隊及び消

防団員9,766名が受賞しました。

当日は、徳田正明日本消防協会会長の式辞に続いて、政府・国民を代表して森喜朗内閣総理大臣(代理：遠藤和良総務副大臣)が祝辞を述べられ、受賞者側からは宮永穆鳥取県消防協会副会長が謝辞を述べました。最後に中川浩明消防庁長官の発声による万歳三唱で式典は終了しました。



祝辞を述べる遠藤和良総務副大臣



危険物安全週間推進標語の決定

(危険物保安室)

消防庁では、都道府県、市町村、全国消防長会及び(財)全国危険物安全協会と共催で、関係諸団体の協力により「危険物安全週間」(6月第2週)を中心として危険物の安全に関する意識の高揚及び啓発を行っています。

この一環として、「危険物安全週間推進標語」を全国に募集したところ3,503点にのぼる作品の応募があり、去る3月5日に開催された危険物安全週間推進標語審査委員会において下

記作品が平成13年度の標語として決定されました。

この標語は、危険物の安全の確保に関する意識を啓発するため本年5月に各都道府県、市町村、消防機関、危険物関係事業所等に配布されるポスター(モデル シドニーオリンピック女子競泳 女子メドレーリレー銅メダリスト田中雅美選手)に使用されるほか、様々なかたちで周知が図られていく予定です。

平成13年度危険物安全週間推進標語

「危険物 めざすゴールは無災害」

過去の最優秀作品

平成2年度	“まさか”より “もしも”で守ろう	危険物
平成3年度	危険物 いつも本番 待ったなし	
平成4年度	心・技・知・危険物には 真剣勝負	
平成5年度	危険物 その時その場が 正念場	
平成6年度	一瞬の すきも許さぬ 危険物	
平成7年度	確実な 攻守がきめての 危険物	
平成8年度	危険物 むき合う心 いざ集中	
平成9年度	気を抜くな 扱う相手は 危険物	
平成10年度	安全は 日々の気持ちの 積み重ね	
平成11年度	危険物 一手先読む 確かな点検	
平成12年度	危険物 守りかなめは 保守点検	

消防研究所の一般公開

(消防研究所)

消防研究所では、平成13年度科学技術週間（4月16日(月)～22日(日)）における行事の一環として、下記のとおり一般公開を行います。

記

1. 概 要

消防研究所において行っている消防防災の科学技術に関する基礎から応用までの幅広い研究、開発の内容について、実験の実施、写真パネルの展示、ビデオ放映等により紹介します。

2. 日 時

平成13年4月20日(金) 10:00～16:00

3. 場 所

〒181-8633 東京都三鷹市中原三丁目14番1号
消防研究所

4. 対 象

一般（無料）

5. 主 催

消防研究所

6. 問い合わせ先

消防研究所庶務課

電話：0422-44-8331

詳細については、消防研究所ホームページ
(<http://www.fri.go.jp>) をご覧ください。



昨年度の消防研究所一般公開

消防記念日

消防記念日は、昭和23年（1948年）3月7日に消防組織法が施行されたことを記念して、同法施行2周年を迎えた昭和25年に設けられました。

これは、消防関係職員をはじめ、広く住民の方々に「自らの地域を自らの手で火災その

他の災害から守る」という消防組織法制定の趣旨を理解し認識を深めていただくというものです。

本年も、全国の消防本部等において、記念式典、消防防災功労者に対する表彰や広報など、様々な行事が行われました。

平成13年春季全国火災予防運動ポスター



社団法人 日本損害保険協会作成・消防庁後援ポスター

